

プログラミング演習I

第2回 プログラムに慣れる その2

1 Rubyをとにかく使おう その2

第1回の演習で、簡単なプログラムの入力と実行を繰り返しを行ったので、だいぶプログラミングに慣れてきたと思う。そこで、今回の演習からは、プログラムを単に実行するだけでなく、プログラム1行ごとの意味を理解することを目標とする。

どのようなプログラムを記述すると、下記に示したことを行うことができるのだろうか？
まずは、演習 2-1 から点線内に示されているプログラムを実行し、また教科書を使って調べながらすすめていこう。

プログラミング演習 I 前半で行う内容の一部

単語のつづりをチェックするには？

正しい場合には OK と表示し、間違っている場合は NG と表示するには？

同じ処理を何度も繰り返すには？

こんにちは Ruby さん！ を 画面上に 100 行表示するには？

0 から 100 までの数を画面上に表示し、最後に総和を表示するには？

変数って何？

文字列や数値を記憶させておきたい場合はどうする？

5 人分の名前を記憶させておくには？

その 5 人の名前を表示するには？

果物の種類と価格を記憶させておくには？

りんご 130 円、オレンジ 80 円、バナナ 30 円 というデータを記憶させておくには？

記憶させておいた果物の種類と価格を表示するには？

教科書

p.25- 条件判断 if

演習 2-1

```
-----  
print("本を英語で書くと?入力してください\n")  
name = gets.chomp  
if name == "book"  
  print("正解! \n")  
else  
  print("不正解! 正解は、 book だよ。 \n")  
end  
-----
```

演習 2-2

```
-----  
print("本を英語で書くと?入力してください\n")  
name = gets.chomp  
if name != "book"  
  print("不正解! 正解は、 book だよ。 \n")  
else  
  print("正解! \n")  
end  
-----
```

教科書

p.27 繰り返し while

演習 2-3 You > と表示されたら文章を入力し、Enter キーを押す。(bye と入力するまで入力と出力を繰り返すプログラム)

```
-----  
command = ""  
print("Ruby > ", "こんにちは Ruby です", "\n")  
while command != "bye"  
  print("You > ")  
  command = gets.chomp  
  print("Ruby > ", command, "\n")  
end  
-----
```

教科書

p.21- 変数

演習 2-4

```
-----  
name = "ベートーベン"  
birth = 1770  
print(name, "は、", birth, "年に生まれた\n")  
-----
```

演習 2-5

```
-----  
name = "シューベルト"  
birth = 1797  
print(name, "は、", birth, "年に生まれた\n")  
-----
```

演習 2-6

```
-----  
name_a = "ベートーベン"  
birth_a = 1770  
print(name_a, "は、", birth_a, "年に生まれた\n")  
name_b = "シューベルト"  
birth_b = 1797  
print(name_b, "は、", birth_b, "年に生まれた\n")  
print(name_a, "は、", name_b, "の", birth_b - birth_a, "年前に生まれた\n")  
-----
```

教科書

p.34- 配列

演習 2-7 配列とは何か、また要素、インデックスとは何か調べよう。

演習 2-8

```
-----  
name = ["ベートーベン", "シューベルト"]  
birth = [1770, 1797]  
  
print(name[0], "\n")  
print(name[1], "\n")  
  
print(name[0], "は、", birth[0], "年に生まれた\n")  
print(name[1], "は、", birth[1], "年に生まれた\n")  
print(name[0], "は、", name[1], "の", birth[1] - birth[0], "年前に生まれた\n")  
-----
```

演習 2-9

```
-----  
a = [1, 3, 5, 7]  
total = a[0] + a[1] + a[2] + a[3]  
print(total, "\n")  
-----
```

演習 2-10

```
-----  
a = [1, 3, 5, 7, 9, 11]  
total = a[0] + a[1] + a[2] + a[3] + a[4] + a[5]  
print(total, "\n")  
-----
```

教科書

p.38- 配列の大きさ

演習 2-11 配列の大きさを表示しよう。

```
-----  
name = ["ベートーベン", "シューベルト"]  
print(name.size, "\n")  
-----
```

演習 2-12 配列の大きさを表示しよう。

```
-----  
name = ["ベートーベン", "シューベルト", "ショパン"]  
print(name.size, "\n")  
-----
```

演習 2-13 配列の要素を表示してみよう。

```
-----  
name = ["ベートーベン", "シューベルト", "ショパン"]  
print(name[0], "\n")  
print(name[1], "\n")  
print(name[2], "\n")  
-----
```

演習 2-14

```
-----  
name = ["ベートーベン", "シューベルト", "ショパン"]  
i = 0  
while i < 3  
    print(i, ":", name[i], "\n")  
    i = i + 1  
end  
-----
```

演習 2-15

```
-----  
name = ["ベートーベン", "シューベルト", "ショパン"]  
i = 0  
while i < name.size  
    print(i, ":", name[i], "\n")  
    i = i + 1  
end  
-----
```

Shoes を使って、絵を描いてみよう

Shoes の使い方

- * Ruby プログラムを作成する
- * Windows のスタートメニュー [すべてのプログラム]-[Shoes]-[Shoes] を選択する
- * "Welcome to SHOES" というメッセージのウィンドウが表示される
- * [Open an App.] をクリックし、作成したプログラムを選択する。

```
----- プログラムリスト sample.rb -----  
Shoes.app(:width => 700, :height => 700, :resizable => false) {  
  
  # 配列の宣言 R(赤) r_color, G(緑) g_color, B(青) b_color  
  r_color = [1.0, 0.0, 0.0]  
  g_color = [0.0, 1.0, 0.0]  
  b_color = [0.0, 0.0, 1.0]  
  
  button("push", width => 200, :height => 50){  
    stroke "white"  
    i = 0  
    x = 0  
    y = 0  
    while i < 3  
      x = x + 50 * i  
      y = y + 100 * i  
      # x 座標, y 座標, 丸の横の長さ, 丸の縦の大きさ, :fill => rgb(R の値, G の値, B の値)  
      oval x, y, 80, 30, :fill => rgb(r_color[i], g_color[i], b_color[i])  
      i = i + 1  
    end  
  }  
}
```

- * 上のプログラムでは3個の丸が表示される。さらに丸を1個加えてみよう。

r_color, g_color b_color に値を追加
他にも変更する箇所あり！さて、どこ？

- * 表示位置を変えてみよう
- * 円にしてみよう

教科書

p.40- ハッシュ

演習 2-16 ハッシュとは何か調べよう。

演習 2-17

```
-----  
birth_table = {"ベートーベン" => 1770, "シューベルト" => 1797}  
  
print("ベートーベンの誕生年 :", birth_table["ベートーベン"], "\n")  
print("シューベルトの誕生年 :", birth_table["シューベルト"], "\n")  
-----
```

演習 2-18

```
-----  
font_table = {"normal" => "+0", "small" => "-1", "big" => "+1"}  
print(font_table["small"], "\n")  
print(font_table["normal"], "\n")  
print(font_table["big"], "\n")  
-----
```

演習 2-19

```
-----  
book_table = {"たのしい Ruby" => 2730, "プログラミング Ruby" => 3990}  
print(book_table["たのしい Ruby"], "円\n")  
print(book_table["プログラミング Ruby"], "円\n")  
-----
```

演習 2-20

```
-----  
font_table = {"normal"=> "+0", "small" => "-1", "big" => "+1"}  
font_table.each { |key, value|  
  print(key, value, "\n")  
}  
-----
```

演習 2-21

```
-----  
book_table = {"たのしい Ruby" => 2730, "プログラミング Ruby" => 3990}  
book_table.each { |key, value|  
  print(key, value, "\n")  
}  
-----
```

演習 2-22 教科書 p.43 List2.1 のプログラムを実行しよう。

演習 2-23 教科書 p.43 List2.1 のプログラムのハッシュに格納する部分を下記のように変更し、実行しよう。

```
-----  
font_table = {"normal" => "+0", "small" => "-1", "big" => "+1", "verybig" => "+2"}  
-----
```

演習 2-24 プログラムを実行しよう。(実行方法は、演習 2-22 と同じ。 ruby プログラム名 > color1.html)

```
-----  
print("<html>\n<title>color list</title>\n")  
print("<body>\n<p>\n")  
color_table = {"赤" => "red", "青" => "blue", "黄" => "yellow"}  
color_table.each{|key, value|  
  print("<font color=\"", value, "\">", key, "</font><br>\n")  
}  
print("</p>\n</body>\n</html>\n")  
-----
```

演習 2-25 プログラムを実行しよう。(実行方法は、演習 2-22 と同じ。 ruby ファイル名 > color2.html)

```
-----  
print("<html>\n<title>color</title>\n")  
print("<body bgcolor = \"blue\"\n")  
print("<p>\n")  
print("背景の色は、何色かな?\n")  
print("</p>\n</body>\n</html>\n")  
-----
```

演習 2-26 背景色 (赤色、黄色、青色) をコンピュータが決定するプログラムを実行しよう。(実行方法は、演習 2-22 と同じ。 ruby ファイル名 > color3.html) 演習 2-25 のプログラムと、どの部分が異なるのか確認しよう。また、プログラム中の rand について調べよう。

```
-----  
color = ["red", "yellow", "blue"]  
no = rand(3)  
  
print("<html>\n<title>color</title>\n")  
print("<body bgcolor = \"", color[no], "\"\n")  
print("<p>\n")  
print("背景の色は、何色かな?\n")  
print("</p>\n</body>\n</html>\n")  
-----
```